

がん化学療法レジメン登録票

新規レジメン登録の際にはプロトコルの提出が必須です
プロトコルがない場合は参考文献を提出してください

レジメン名	DA-EPOCH-R
診療科名	血液・腫瘍内科
診療科責任者名	末永 孝生
適応がん種	非ホジキンリンパ腫
保険適応外の使用	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無

がん治療ワーキンググループ使用欄	
登録番号	NHL-030
登録日・更新日	2017年 2月28日 登録 2020年 4月28日 更新
削除日	
出典	J Clin Oncol. 2008 ;26 :2717-24. N Engl J Med 2013; 368:1408-1416
入力者	伊勢崎 竜也

投与順に記入(抗がん剤のみ)

No.	薬剤名：一般名 (薬剤名：商品名)	規格	投与量算出式	投与経路	投与時間	施行日
	希釈液					
No.1	エトポシド (エトポシド点滴静注液)	100mg	50 mg/m ²	□IV □DIV ■CV □側管 □その他()	24時間	day 1-4
	生理食塩液	500 mL				
No.2	ドキシゾリン塩酸塩 (ドキシゾリン塩酸塩注射液)	10mg, 50mg	10mg/m ²	□IV □DIV ■CV □側管 □その他()	24時間	day 1-4
	生理食塩液	500 mL				
No.3	ビンクリスチン硫酸塩 (オンコピン注射用)	1mg	0.4mg/m ²	□IV □DIV ■CV □側管 □その他()	24時間	day 1-4
	生理食塩液	100 mL				
No.4	シクロホスファミド水和物 (注射用エンドキサン)	100mg, 500mg	750mg/m ²	□IV □DIV ■CV □側管 □その他()	bolus	day 5
	生理食塩液	100 mL				
No.5	プレドニゾンコハク酸エステルナトリウム (水溶性プレドニン)	20mg	60mg/m ²	□IV □DIV ■CV □側管 □その他()	2時間	day 1-5
	生理食塩液	500mL				
No.6	リツキシマブ(遺伝子組換え) (リツキシマブBS点滴静注)	100mg, 500mg	375 mg/m ²	□IV □DIV ■CV □側管 □その他()	*	day 0
	生理食塩液	500 mL				
No.7	フィルグラスチム注	75 μg, 300 μg	75 μg/body	□IV □DIV ■CV □側管 ■その他(皮下注)	-	day 6 以降

1コースの期間	21日
投与間隔の短縮規定	<input type="checkbox"/> 短縮可能(日)・ <input checked="" type="checkbox"/> 短縮不可能
計算後の投与量上限値	110%
計算後の投与量下限値	50%

減量・中止基準	<p>【開始基準】 ANC>1,000 / μL、Plt>10万 / μL</p> <p>【延期・減量基準】 エトポシド、ドキシゾリン、シクロホスファミドの投与量は、nadiriにおけるANC、血小板数に基づいて調整する。</p> <p>週2回の採血を行い、その結果によって投与量を下記のように調節する。 - ANC<500 / μL場合は、前コースに対して20%増量する。 - 1、2回の測定でANC <500 / μLの場合、次コースの投与量は前コースと同量。 - 3回測定でANC <500 / μL、または1回測定で血小板<2.5万 / μLであれば、次コースは前回より20%減量する。ただし、ドキシゾリンおよびエトポシドの用量は、開始用量より減量しない。</p> <p>・オンコピンはGrade 2、3の運動神経障害がある場合は、各々25%、50%減量する。Grade 3以上の感覚神経障害がある場合は50%減量する。</p>
前投薬	<p>【リツキシマブ前投薬】 アゼトアミノフェン500mg + クロルフェニラン注10mg + ファモチジン注20mg + ヒドロコルチゾン注100mg</p> <p>【制吐剤】 抗5-HT3薬</p>
その他の注意事項	<p>* リツキシマブの投与方法は院内標準化に準拠する。</p> <p>・オンコピンの1日最大投与量は2mg/body ・ドキシゾリン塩酸塩の総投与量は500mg/m²以下とする。 ・エトポシド、ドキシゾリン、オンコピンは混注しても良い。</p> <p>B型肝炎ウイルスキャリアの患者又は既往感染者(HBs抗原陰性、かつHBe抗体又はHBs抗体陽性)において、本剤の投与によりB型肝炎ウイルスの再活性化による肝炎があらわれることがあるので、本剤投与に先立って肝炎ウイルス感染の有無を確認し、本剤投与前に適切な処置を行うこと。本剤の治療開始後及び治療終了後は、継続して肝機能検査や肝炎ウイルスマーカーのモニタリングを行うなど、B型肝炎ウイルスの再活性化の徴候や症状の発現に注意すること。</p>

記入者	伊勢崎 竜也
確認者	竹内 正美